

## 平成25年度全国学力・学習状況調査クロス集計結果

平成25年12月25日に文部科学省のホームページ上で、「平成25年度全国学力・学習状況調査クロス集計結果 ―指導と学力の関係等の分析―」が発表されました。これは、8月に公表した平成25年度調査の結果について、教科に関する調査と質問紙調査のクロス集計等を行い、学校の指導状況と学力の関係などを分析したものです。詳しくは、国立教育政策研究所のホームページをご覧ください。

※ 国立教育政策研究所ホームページ

<http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/>

ここでは、国立教育政策研究所の分析に沿って、香取市の状況を見ていきます。

### 指導と学力の関係

学校の授業で次のような活動を積極的に行った学校ほど、教科（特に活用の記述式問題）の正答率が高い傾向が見られます。

#### ◆ 見通し・振り返り学習活動

- ・ 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動
- ・ 授業の最後に学習したことを振り返る活動

〔香取市の状況〕小学校は全国の学校と同程度ですが、中学校では全国の学校より高い割合で見通し振り返る活動に取り組んでいます。

#### ◆ 言語活動や総合的な学習の時間

- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 総合的な学習の時間における探究活動

〔香取市の状況〕小学校は全国の学校よりやや下回っていますが、中学校では全国の学校より高い割合で話し合う活動や探究活動に取り組んでいます。

## 指導と学習習慣の関係

次の指導・活動を行った学校ほど、児童生徒の家庭での学習習慣が身に付いている傾向がみられます。

- ◆ 学習方法（テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導
- ◆ 家庭学習に関する指導（家庭での学習方法について具体例を挙げながら教えるなど）
- ◆ 総合的な学習の時間における探究活動

〔香取市の状況〕学習方法に関する指導や家庭学習に関する指導は、小中学校共にほぼ全国の学校と同じ程度の割合で取り組んでいます。

総合的な学習の時間における探究活動に関しては、小学校は全国の学校よりやや下回っていますが、中学校では全国の学校より高い割合です。

## 児童生徒質問紙と教科の平均正答率のクロス集計結果から

これまでの報告のほかに、児童生徒質問紙と教科平均正答率との関係を分析してみると、香取市の児童生徒は次のような場合、国語・算数・数学の平均正答率が高くなっていることもわかりました。

- ◆ 朝食を毎日食べ、規則正しい生活をしている
- ◆ 学校の授業時間以外に、毎日計画的に家庭学習（特に復習）を行っている（学習塾や家庭教師含む）